



東毛福祉事業協同組合

**食の安心・安全がモットー
販路拡大と業務効率化を両立し、
新たな展開を目指す**



大泉町

住 所 邑楽郡大泉町古氷22-20
T E L 0276-62-4181
M a i l post@tomo-kyusyokku.com
U R L https://tomo-kyusyoku.com/
代表者 阿部 仁一

設 立 1963年6月10日

資本金 3,600万円

従業員 220人

WEBサイト



企業紹介

当社は昭和38年設立、翌39年創業。太田商工会議所が中心になり地域企業参加のもと県下6番目の中小企業の福利厚生施設として設立されました。以降、食中毒などの事故を1度も起こすことなく、安価で良質な給食を安定的に供給し続け、令和4年9月現在 大泉町内の小中学校の学校給食、地域内幼稚園の給食、地域内企業へ産業給食のお届け1200先、地域内企業の社員食堂を20先受託する等、群馬県に留まらず北関東を代表する給食センターに成長するに至っています。

経緯・背景

製造食数、平日1日あたり平均20,000食以上を提供し同地区では、確立した事業展開を行っています。また、ISO9001・厚生労働省HACCP高度化基準認証などを取得し、食の安心・安全をモットーに経営をしています。

しかしながら、近年の外出産業の進出や食の多様化により、ヘルスケアに注力したクックチル等の介護食が事業成長の柱となりつつあります。

販路拡大に伴い、多方面に分かれ増えてしまった配送コースの適正化を図り、CO2削減に貢献し、且つ新事業に必要な資源を確保するため、業務の効率化を図りました。

AI活用が成功のカギ 配送コースの適正化で、 輸送コスト大幅削減

具体的な取組・成果

配送コースを適正化することにより、CO2を削減し、同時に新事業に必要な資源を生み出しました。



AIを活用することで配送コストは大幅に削減しました

- ①現状の配送コース32地区をグーグルマップ上にプロットしAIに走らせる。
- ②AIが必要と判断した配送時間と設定上の配送時間に差異があった場合はAIの時間に変更する。
- ③①及び②を繰り返すことにより、総配送時間5505分を5055分まで削減した(450分削減)。
- ④③の結果、ほぼ全てのコースの出発時刻が遅くなったため、隣接する地区を合併させ、製造後即出荷ができる状態にしたところ32地区、配送時間5505分が25地区、配送時間4670分に圧縮することが可能になった(車輛7台削減・人員8名削減・時間835分削減)。
- ⑤配送だけに留まらず、午後の回収コースも同様に実施20地区2415分を15地区2055分にまで圧縮(車輛5台削減・人員5名減・時間360分削減)。

これらの取組により、午前15%・午後15%の配送時間が削減されました。と同時に労働生産性の向上、及び配送時間＝エンジン稼働時間であることから、CO2の削減も同様に達成することができました。

上記の結果、午前中8名・午後5名・工数/日1195分を生み出す事ができた為、新たな人的投資をすることなく新事業の展開が可能となりました。



クックチル盛付例

当社にとってのSDGsビジョン

給食センターはその事業の特性上「クックサーブ」(調理後に即提供)に分類される為、残食や廃棄ロスの問題が常に課題となっていました。近年、残渣を養豚業者に引き取ってもらうことにより大幅に廃棄物は削減できましたが、クックチルや真空調理法で製造することで消費期限を延長し、更に食品ロスの低減を図っていきます。同時に社会構造の変化に敏感に対応し、特定少数から不特定多数への提供を視野に入れ、EC等を活用し全国展開を目指していきます。



クックチル真空状態

今後の展望と求めるパートナー像

現在は「クックサーブ」及び「クックチル」の製造及び販売を実施中ですが、更なる販路の拡大を目指し冷凍食品(クックフリーズ含む)工場を建設していきます。以降はプラットフォームのアライアンスにより日本全国に「給食」の素晴らしさを訴求していきます。



クックチル真空包装作業